



大地の恵みを人が奏でる だれやめの郷

広報

いさ

2022.10

JSA City Public Relations No.333



特集 かごしま国体まで1年

特集

かごしま国体まで1年

「燃ゆる感動かごしま国体 特別国民体育大会」は、本来「第75回 燃ゆる感動かごしま国体」として、鹿児島県で前回（1972年）開催された第27回国民体育大会（太陽国体）以来48年ぶりに、2020年10月に開催される予定でした。しかし、2020年1月からの新型コロナウイルス感染拡大により、大会での感染リスクが避けられないこと、各都道府県で出場選手の予選が実施困難であることを踏まえ、2023年10月に延期されることが発表されました（国体の延期は史上初）。

菱刈カヌー競技場

（湯之尾）

このカヌー競技場がある湯之尾地区は、古くから温泉街として知られています。

旧菱刈町時代から、この静水域等を活用したドラゴンボート大会や九州カヌー冬季合宿などを開催し、「かわまちづくり」に取り組んできている場所です。

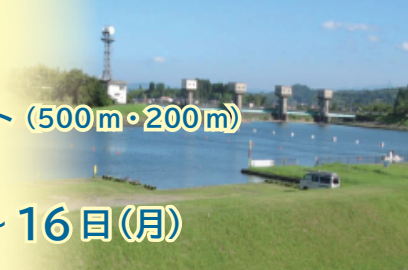


2023

燃ゆる感動かごしま国体の概要

伊佐市開催競技

| | |
|---------|--|
| 大会名 | 特別国民体育大会 |
| 愛称 | <p>燃ゆる感動 かごしま国体</p> <p>世界有数の活火山である桜島や明治維新を成し遂げた偉人に象徴される熱く情熱的な鹿児島、アスリートたちの熱気あふれるパフォーマンスや県民の心のこもったおもてなしが、熱く燃えるような感動を呼び起こす大会をめざします。</p> |
| 開催期間 | 2023年10月7日（土）～17日（火） |
| 実施競技 | <p>○正式競技 37競技 ○特別競技 1競技 ○公開競技 5競技 ○デモンストラーションスポーツ 36競技</p> <p>伊佐市開催競技</p> <p>○正式競技：カヌー競技カヌースプリント（500m・200m） 競技会場：菱刈カヌー競技場 開催期間：令和5年10月13日（金）～16日（月）</p> |
| スローガン | <p>熱い鼓動 風は南から</p> <p>熱戦を繰り広げるアスリートたちの熱い鼓動と会場に響きわたる歓声が、鹿児島から南の風に乗って全国に広がってほしいという思いが込められています。</p> |
| イメージソング | ゆめ～ KIBAIYANSE ～ 作詞・作曲 辛島美登里 / 編曲 NAOKI-T |



- 2017年7月 第75回国民体育大会 鹿児島開催決定
- 1972年開催 第27回国民体育大会（太陽国体）以来48年ぶりの開催
- 2018年5月 伊佐市菱刈カヌー競技場 落成式
- 2019年8月 南九州総体が2020国体のプレ大会として開催
- 2020年1月 新型コロナウイルスが日本で初の感染確認
- 2020年6月 全国で約17,000人に拡大したことから国体の延期を決定
国体の延期は史上初
- 2020年9月 日本スポーツ協会等、関係機関との協議、後催県の協力を得て2023年の開催を決定
第〇回と回数を付与せず“特別大会”として開催
- 2022年10月 いちご一会とちぎ国体（栃木県）開催
- 2023年10月 燃ゆる感動かごしま国体開催予定（残り377日：10/1現在）
- 2024年10月 SAGA 2024 開催予定（国民体育大会から国民スポーツ大会へ名称変更）

伊佐市競技会場



令和4年度 開催予定大会

大会名 九州カヌースプリント選手権大会
 期間 10月21日（金）～23日（日）
 ◎今大会を国民体育大会の準備大会と位置づけ
 取り組む大会です。

菱刈カヌー競技場艇庫

国体開催に向け、平成30年3月（2019年）に完成しました。艇庫は鉄骨造2階建の構造で、会議室、トレーニング室、シャワー室を完備し、多くのカヌー艇を保管しています。

一流アスリートの
 プレーを間近で
 観戦しよう！

マスコット キャラクター ぐりぶーファミリー



「ぐりぶー」と「さくら」夫婦に加え、7人の子どもたちが一致団結して、大会を盛り上げます。

競技内容を
知って
国体をもっと
楽しもう！



●スプリント（伊佐市開催）とスラローム（湧水町開催）の違い

伊佐市で行われるスプリントは、流れのない直線コースで数艇が同時にスタートしその順位を競い合います。スタートを切るとどの選手もダイナミックに水しぶきを上げながら全速力でパドルを動かします。ペア（2人乗り）やフォア（4人乗り）ではメンバー同士の息の合ったパドル捌きが壮観で、個人とは一味違った優雅さも見どころの1つです。

湧水町で行われるスラロームは、激流コースを下りながら2つのポイントでできたゲートを順番に通過しタイムとその技術を競います。パドルや体がゲートに当たったりゲートを通過しそこねるとポイントが減ってしまいます。速さも大事ですが、より正確にゲートを通過する技術も大切です。

カヌー艇の形も異なり、スプリントは細長く、スラロームは短くてコンパクトです。

●カヤックとカナディアンの違い



カナディアン

漕者が進行方向に向かって立膝の姿勢をとり、パドルで片方のみを漕ぎながら前に進むのがカナディアンです。カナディアンはラダー（舵）が付いていないため方向を操作しながら漕ぐ技術やバランス感覚が必要になります。

カヤック

漕者が進行方向に向かって長座の姿勢で座り、パドルで左右交互に漕ぎ、足元でラダー（舵）を微妙に操作しながら前に進むのがカヤックです。左右両側で漕げるため、カナディアンよりもスピードが速く、パドルを豪快に動かして進んで行くところも魅力です。



伊佐市開催競技を
みんなで
応援しよう！



かがしま国体まで

あと **377** 日

(令和4年10月1日現在)

およそ1年後に迫った、かごしま国体。伊佐市の川内川にある菱刈カヌー競技場では、カヌースプリント競技が行われる予定です。カヌースプリントは静水で一斉スタートして着順を競う競技で、力強さやペース配分の駆け引きが大きな魅力です。

今月号では、カヌースプリント競技で日の丸を背負う、幼なじみの仲良しコンビをご紹介します。大口明光学園の植木春華さん・児島晴子さんペアは、9月29日から石川県で開催されるアジア・パシフィック・カヌースプリント大会に、カヤックペア（500m）U16日本代表として出場します。

「物心つく前からカヌーに乗っていました」と話す植木さんは、カヌー選手で指導者でもあるご両親の影響でカヌーを始め、小学校1年生からレースに出場して経験を積みました。昨年チェコで開催されたジュニアオリンピックホープスにもU15日本代表として出場し、「海外選手のレベルの高さにびっくりしながら

らも自分のパフォーマンスに集中できました」と振り返ります。今年10月のとちぎ国体にも、少年女子カヤックシングルの県代表として出場します。

一方、児島さんは3歳上のお兄さんの影響で小学校1年生からカヌーを始めたそうです。1学年先輩の植木さん。「いつもニコニコしている優しいお姉さんで、なににごとも全力で取り組む姿勢をとても尊敬しています」と慕う児島さんは、「先輩に追いつけるよう、個の実力をつけてペアの記録も伸ばしたい」とパドルを持つ手にも力が入ります。

ふたりは今後の目標について「整った環境に感謝しながら質の高い練習でコンディションを維持し、成長し続ける一年にしたい。応援してくださるみなさまへの感謝の気持ちをパドルに込めて、最後まで漕ぎ抜きます」と、世界大会・かごしま国体での活躍を誓いました。

植木 春華さん

大口明光学園高校（2年生）

児島 晴子さん

大口明光学園高校（1年生）

学校をはじめ多くの方々のサポートに感謝していると話すふたり。「テストと大会が重なるときは本当に大変ですが、文武両道をめざして、意地で頑張ります!」と笑顔。